

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

ものづくり技術者の育成を通して人づくりを行い、地域社会に貢献し信頼される学校をめざす。

- 1 人格の陶冶を育む学校（すべての教育活動を通して、社会で自立した人間として力強く生きるための総合的な力（人間力）の育成をめざす）
- 2 自立した工業人の養成を実践する学校（産業界の変化に対応できる創造力豊かな学技兼備の工業人の養成をめざす）
- 3 健全な社会人の育成を実践する学校（豊かな人間性や基本的な生活習慣を確立した社会人基礎力の育成をめざす）
- 4 教職員のベクトルが一致し、成果が結集する組織的な学校（課題を共有し、生徒の成長に組織的に寄与し達成感・充実感がある学校）

2 中期的目標

―生徒の『創造』・『協力』・『挑戦』を実現する学校経営―

- 1 人間力の育成（基礎学力やコミュニケーション力、規範意識を備え、自己統制力を持った生徒の育成をめざす）
 - (1) 社会人基礎力の育成（基礎学力の向上と人間性、基本的な生活習慣の確立）
 - ア 基礎学力の向上を図り、社会人として必要な文書知識や数学的な思考方法などを育成する。（基礎学力テスト結果の向上）
 - イ 全職員で、基本的な生活習慣の向上と定着を図る取組みを推進し、生徒自らが自己に気づき自ら改善する力を培う。（年間遅刻者数 平成30年度に1,200名以下（平成29年度1,495名～2020年度までに1,000名以下にする。）
 - ウ 生徒（会）活動の一層の推進を図るとともに、部活動の活性化をめざす。（挨拶運動の発展、部活動入部率 平成30年度に45%以上（平成29年度41%）～2020年度までに50%にする。）
 - (2) 進路実現に向けたキャリア教育の充実
 - ア 系統的なキャリア学習の一層の推進を図り、就職基礎能力を育成する。（就職一次試験合格率 平成30年度に85%以上（平成29年度84.6%）～2020年度までに90%にする。）
 - イ 企業や労働関係団体等と連携を促進し、インターンシップや企業関係者講演会等の機会を充実し、職業意識や勤労観を高める。（卒業後3年経過時の離職率20%以下）
 - ウ 大学等への進学希望者の進路保障の実現（大学進学希望者の進学率100%の継続）
 - (3) 人権教育及び支援教育の充実
 - ア 学校教育活動全体を通して、他者を尊重し自己を大切にすることへの人権意識の向上を図る。（いじめ等の早期対応による重大事象ゼロの継続）
 - イ 支援教育コーディネーターを中心として、支援の必要な生徒への組織的な取組みの充実を図る。
- 2 工業教育の充実（実践的スキル養成重点校としての充実）
 - (1) 専門性向上に向けた取組みの充実
 - ア 企業等との連携を推進し、各専門系の課題研究等の一層の充実を図る。
 - イ 資格支援センターのサポート機能と連動し、各専門系、教科等の資格取得の取組みの一層の活性化を図る。（年間ジュニアマイスター資格取得者数10人以上）
 - ウ 各専門系の各種技能コンテスト等への組織的な取組みを推進し、近畿・全国大会への出場及び上位入賞をめざす。
 - (2) 工業教育の魅力発信
 - ア ものづくり教育を基盤に小中学校や支援学校の児童生徒や教員に対して、専門教育への興味関心を高める活動の充実を図る。
 - イ 工科高校の魅力発信するための広報活動の一層の推進を図る。
- 3 教員の資質向上
 - (1) 学校組織の活性化とともに、校内研修及びOJTを積極的に推進し人材育成に努める。
 - (2) 教員相互の公開授業や研究授業の積極的な推進による授業力向上とICTを活用した教育を推進する。（ICT授業活用率 平成30年度に45%以上（平成29年度41%）～2020年度までに60%にする。）
 - (3) 人権研修の充実を図り、人権尊重の教育を推進するとともに教員のカウンセリングマインドの向上を図る。
- 4 地域との連携
 - (1) 堺・高石地域の地場産業等との連携を通して、生徒の自己実現をめざした活動の充実を図る。
 - (2) NPOや各種地域団体との連携を一層深め、クラブ活動などを通じた地域貢献をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】 朝学の計画的な実施、授業展開等の教育活動の取組みによって、「基礎学力が身につけてきている」、「授業内容が理解できている」という項目において、それぞれ、7.0%、4.9%昨年度より上昇しており、生徒の学習に対する充実度がうかがえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの学習指導に対する肯定率が5.7%増加し、教員の基礎学力向上への肯定的な意識も22.2%の向上があった。 ・資格取得に関する項目では5.0%の減少が見られた。 <p>今後は、現在行っている取組みを継続し、生徒たちが積極的に資格指導に取り組める環境を整える必要がある。</p> <p>【生徒指導等】 ・遅刻者数が減少し、保護者・生徒共に生活習慣に関する項目において肯定率に2.6%増加がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「相談室等で気軽に相談できる先生がいる」と回答した生徒が7.3%減少した。全教員のカウンセリングマインドを備えた指導の充実と教育相談の啓発に努め、活用を促進させることが必要である。 ・クラブオリエンテーションの充実、クラブ強化週間の実施等のクラブ活 	<p>第1回（6/29）</p> <p>○人間力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間遅刻者数が1千5百件に減少してきたが、さらに減少させ1千件以下にするには、指導する教員が粘り強く生徒に対応することが大切である。 <p>○教員の資質向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革を言われる中、多くの教員研修が行われることで時間がとられ負担がかからないか心配である。 <p>○工業教育の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを利用して工科高校の魅力発信することは重要だがホームページのターゲットをどこに置くかを考えて、コンテンツを検討することも大切である。 <p>第2回（11/21）</p> <p>○人間力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中退者の数が昨年度と比べて同じ値となっている。その理由として工業科に対するミスマッチのため進路変更が多く、学力を理由に退学する生徒は少ない。入学前に工科高校が

動の推進をはかってきた結果、クラブ加入率も年々上昇し、「部活動に積極的に取り組んでいる」回答した生徒が13・6%増加した。

【学校運営】

・教員による学校組織に対する項目において、9.0%減少が見られている。学校組織の活性化が必要である。

・保護者による「学校のホームページや携帯メールは役に立っている」という項目において、肯定率が11.5%増加した。台風等の災害時における情報伝達の手段として、ホームページでの公開を行い、保護者の方からの理解も得られた。

どのような学校かがわかり易いPRをする工夫が必要でないか。

○教員の資質向上について

・初任者および10年目経験者の自己評価達成度が今後上昇するような取組みを検討。

第3回(2/6)

○教員の資質向上について、ICTの活用率があまり良くないのは活用しやすい教科としにくい教科があるのではないか。大事なことは生徒の習熟である。活用率の目標値にこだわらずに生徒がわかる授業のためにICTを活用することが大切ではないか。

○成功体験は大事であるが、失敗の体験が単なる失敗で終わらないよう大学では1年次に体験し4年後の卒業研究の選択に活用できるシステムもある。

○業務改善、不要な会議をやめられないかというところから改善をめざす。働き方改革は、言葉が先行して、早く帰ることが目標になってきている。業務の質を保ちつつ、定時の中で仕事ができるようにということである。

府立堺工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>人間力の育成</p> <p>(1) 社会人基礎力の育成</p>	<p>(1) ア基礎学力の向上</p> <p>イ生徒指導の充実 (マナー向上含む)</p> <p>ウ生徒活動の活性化</p>	<p>(1) ア・第1学年については、数学は習熟度別指導、英語は少人数指導を継続実施する。 ・朝学の計画的な実施によって、学習意欲の向上と学習習慣の確立を図る。 ・わかる授業を観点としたより丁寧な授業改善を図る。 ・次期学習指導要領への対応準備として、指導と評価に関する校内研修を実施する。</p> <p>イ・学校として統一的した生徒指導と学年団と連動した指導の徹底で基本的生活習慣の改善を図る。(遅刻指導、特別指導等) ・正しい制服の着用を徹底する。 ・校内飲食指導を定着させる。</p> <p>ウ・自主的な生徒会活動による挨拶運動、行事、ボランティア等の生徒活動の活性化を図る。 ・部活動の活性化に向けた多様な方策を検討する。 ・PTAと連携した頑張る部活動の支援策の推進</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、基礎学力向上に関する項目の肯定率を前年度以上をめざす。(H29年度71%) ・基礎力診断テストの学年平均得点の前年度平均を上回る。(第2、第3学年)(H29年度1年180点、2年188点) ・朝学の基礎学力に関する項目の得点率の年度内向上。</p> <p>イ・遅刻者数を前年度比10%減少をめざす。(H29年度1,495名) ・中退及び留年者数を前年度比10%減少をめざす(H29年度84名)。 ・特別指導対象者数を前年度比10%減少をめざす。(H29年度30名)</p> <p>ウ・学校教育自己診断アンケート結果で、学校生活の満足度に関する項目の肯定率を前年度比10%の向上をめざす。(H29年度65%) ・体育祭、文化祭アンケート結果で学校行事の満足度に関する項目の肯定率前年度比を向上させる。(H29年度55%) ・第1学年の部活動加入率45%をめざす。(H29年度第1学年41%) ・部活動の近畿大会、全国大会への出場及び上位入賞</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、基礎学力向上に関する項目の肯定率は76%と前年度より向上が見られた。(○)また、基礎力診断テストの学年平均得点の前年度平均も上回った。(第2学年185点、第3学年192点)(○)朝学、クラス展開等の取組みにより、より良い学習環境が整ってきている。今後も継続的な取り組みが必要である。</p> <p>イ・遅刻者数は前年度比5.5%減少している。(H30年度1413名)(△) ・中退及び留年者数81名(△) ・宿泊行事における特別指導対象者が多くでため、特別指導対象者数45名となった。(△)</p> <p>ウ・学校教育自己診断アンケート結果で、学校生活の満足度に関する項目の肯定率は68%であった。(△) ・体育祭アンケート結果による行事満足度73% ・文化祭アンケート結果による行事満足度83%(○) ・ここ数年のクラブオリエンテーションの充実、クラブ強化週間の設置など取組みの結果、第1学年の部活動加入率49%につながった(◎) ・弓道部 近畿大会出場 男子団体・女子個人 ボクシング部 全日本女子選手権大会優勝(○)</p>
<p>(2) キャリア教育の充実</p>	<p>(2) ア就職基礎能力の育成</p> <p>イ インターンシップ等の機会の充実</p>	<p>(2) ア・各学年における段階的なキャリア学習内容の一層の充実を図る。 ・就職基礎能力(知識、文書力、コミュニケーション力等)の育成を図る。 ・就職試験対策の強化を図る。(面接指導の充実) ・基礎学力向上と就職状況の連動性を検証する。 ・卒業生の3年後離職率調査を継続して実施する。</p> <p>イ・府商工労働部の「ものづくり企業魅力発信事業」を活用して、インターンシップの企業開拓等の充実を図る。(新規の企業開拓) ・早期に生徒アンケートを行い生徒のニーズを整理し企業への提案活動を行うことで受入企業の増加を図る。</p>	<p>(2) ア・就職希望者の全員合格をめざす。 ・大学等進学希望者の全員合格をめざす。 ・進路指導に関する自己診断の肯定率を前年度10%の向上をめざす。(H29年度73%) ・就職一次試験合格率85%以上をめざす。(H29年度84%)</p> <p>イ・インターンシップ参加者数を前年度比10%の向上をめざす。(H29年度70人) ・インターンシップ先企業の生徒評価肯定率90%以上をめざす。(H29年度92%)</p>	<p>(2) ア、学校全体、学年、各系における進路・面接指導により、就職一次合格率の上昇がみられた。 ・就職希望者196人中196名合格(○) ・大学等進学希望者43人中43人合格(○) ・進路指導に関する自己診断の肯定率70%であった。(△) ・就職一次試験合格率90%(◎)</p> <p>イ・今年度は、進路選択のミスマッチを防ぐため、生徒が希望する職種に参加させた結果、インターンシップ参加人数49名と昨年度を下回った。来年度、生徒に広くインターンシップの意義を伝え、職種にこだわらない参加を促す必要がある。(△) ・インターンシップ先企業の生徒評価肯定率91%(○)</p>
<p>(3) 人権教育、支援教育の充実</p>	<p>(3) ア人権意識の向上</p> <p>イ支援教育の充実</p>	<p>(3) ア・HR活動、学年・全体集会などを通じて、身近な人権課題を考える機会の充実を図る。いじめ等の組織的な早期対応を図る。 ・障がいのある生徒との共同学習の充実を図る。</p> <p>イ・支援教育コーディネータを中心として校内支援教育体制を継続し、個に応じた指導を充実する。 ・「個別的教育支援計画」を活用した支援の充実を図る。(中学訪問を実施し「個別的教育支援計画」の引継ぎと新たに支援を要する生徒の計画の新規作成を推進する。</p>	<p>(3) ア・いじめ等の人権に関わる問題行動事象の早期対応による重大事象ゼロをめざす。</p> <p>イ・教育相談体制に関する自己診断結果で、肯定率を前年度比10%向上をめざす。(H29年度62%) ・特別支援教育に係る教員研修の参加者アンケート(研修成果)の肯定率80%以上をめざす。</p>	<p>(3) ア・生徒アンケート結果から認識した8件数に対しては、早期に対処することができた。いずれも指導のもと、解消。重大事象はゼロ。(○)</p> <p>イ・教育相談体制に関する自己診断結果で、肯定率64%(△) ・特別支援教育に係る教員研修の参加者アンケート(研修成果)の肯定率72%(△)</p>
<p>工業教育の充実</p> <p>(1) 専門性の向上</p>	<p>(1) ア企業等連携による専門系授業の充実</p> <p>イ各種資格取得の推進</p>	<p>(1) ア・府教育庁の「企業等連携による実践的技術力育成事業」を活用し、各専門系での課題研究等の授業の充実を図る。</p> <p>イ・資格支援センターを中心に、各系、学年と連携した取組みを継続して推進する。 ・昨年検討した個々に応じた資格取得を促進するため、各系別の取得モデルの見直しを図る。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、専門性に関する項目の肯定率を80%以上をめざす。(H29年度82%)</p> <p>イ・資格取得率を各検定ごとに、昨年度以上をめざす。(H29年度平均61.5%) ・ジュニアマイスターの受賞者数の、前年度以上をめざす。(H29年度10名) ・各系別取得モデルの提示</p>	<p>(1) ア・専門性に関する項目で保護者からの回答では80%を維持している。 生徒からの回答では83%となり前年と同じ値を維持している。(○)</p> <p>イ・各検定ごとの合格率は平均82.1%となり前年度より上がっている。受験する資格および検定級を精査することで生徒が集中して受験することができた。(◎)</p>

府立堺工科高等学校

<p>(2) 工業教育の魅力発信</p>	<p>ウ各種技能コンテストへの挑戦</p> <p>(2) ア専門教育への興味関心を高める取組みの推進 イ広報活動の推進</p> <p>ウ課題研究の充実</p> <p>エ専門教科指導の向上</p>	<p>・各検定の一般合格率(難易度)に基づく新たな評価指標を引き続き検討する。</p> <p>ウ・高校生ものづくりコンテスト等への積極的な取組みを推進する。 (機械系:高校生ものづくりコンテスト旋盤部門、溶接技能コンクール、製図コンクール、ロボット相撲大会) 電気系:高校生ものづくりコンテスト電気工事、電気回路組立部門への取組み強化 マイコンカーラリーへの参加 環境科学システム系:高校生ものづくりコンテスト化学分析部門への参加)</p> <p>(2) ア・中学校生徒へ体験入学を実施し、ものづくりの楽しさを伝え、専門教育への関心を高める。 イ・学校Webページの各コンテンツ内容の一層の充実を図るとともに、保護者一斉メールとの連動で情報提供の充実を図る。 ・新たにコンテンツの情報拡散を図るため、SNSなどの運用を検討する。</p> <p>ウ・3系が連携した内容のテーマを設定し、系の枠を超えた課題研究を実施する。 ・各系で系を象徴する代表的なテーマを設定して、系の特色を生かした内容の課題研究を実施する。</p> <p>エ・工業科教員の技術力向上のため、教員が参加できる各種コンテストに挑戦する。 ・新たに自校で主催するコンテストの創設を検討する。</p>	<p>ウ・旋盤部門の上位入賞をめざす。 ・溶接技能コンクールの上位入賞をめざす。 ・電気工事部門の大阪大会6連覇と全国大会優勝をめざす。 ・化学分析部門の近畿大会上位入賞をめざす。</p> <p>(2) ア・体験入学の参加者アンケートの肯定率90%以上を継続する。(H29年度93%) ・体験入学参加者数の前年度以上をめざす。(H29年度118人) イ・Webページの更新回数を前年度以上をめざす。(H29年度更新回数150回) ・学校教育自己診断における保護者の情報提供に関する肯定率の前年度以上をめざす。(H29年度81%) ・Webページのアクセスページビューを10万以上を継続する。</p> <p>ウ・課題研究発表会において、外部評価を実施し、肯定評価率80%以上をめざす。(H29年度未実施)</p> <p>エ・教員のコンテスト及び資格検定への参加数3人以上をめざす。</p>	<p>・ジュニアマイスター顕彰受賞者は35名で過去最高を達成した。(◎)</p> <p>ウ・全国製図コンクール最優秀特別賞受賞(2年連続) ・高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門大阪大会出場 ・高校生溶接コンクール 9名出場予定 優良賞1名受賞 ・高校生ものづくりコンテスト (2年連続両部門優勝) 電気工事部門 大阪大会1位 近畿大会4位 電子回路組立部門 大阪大会1位 近畿大会6位 化学分析部門 近畿大会出場 (△)</p> <p>(2) ア・体験入学参加者アンケート結果では、肯定率90%以上となり参加者には満足頂いている。また、参加者数は120名(前年度118名)となった。(○) イ・今年度のWebページ更新回数は、151回実施。また、クラブ紹介ページの内容を実施アクセス数がさらに向上している。(○) ・学校教育自己診断の情報提供に関する肯定率はH29年度81%であったが今年度は89%となり8ポイント上昇している。(◎) ・今年度のアクセス数は、22万ページビュー(昨年度12万5千ページビュー)新規閲覧者およびリピーター率ともに上昇している。今年度の堺工科関連のPR動画視聴数は4千回となった。今年度より堺工科公式インスタグラムを開設(◎) ウ・課題研究発表会において、外部評価を実施し、肯定評価率83%(○) エ・校内製図コンクールを実施し教員も参加(○)</p>
<p>教員の資質向上</p> <p>(1) 学校組織の活性化と人材育成</p>	<p>(1) ア情報共有による組織連携の強化 イ初任者等の校内研修の充実</p> <p>(2) ア授業力向上とICT教育の推進</p> <p>(3) ア人権研修の充実</p>	<p>(1) ア・情報の縦の流れ(職員会議・運営会議)と横の流れ(科系・分掌・学年)の連携を見直し、情報の組織的な統一を図る。 イ・教科指導員と首席の役割分担による初任者校内研修の充実とOJTによる資質向上を図る。(事前事後指導の一層の充実) ・10年経験者研修対象者の校内研修の充実</p> <p>(2) ア・公開授業週間を設定し、相互の授業研究により授業力の向上を図る。 ・2学年全HR教室にプロジェクターを新たに設置し、ICTを活用したわかる授業を推進する。 ・本校の施設設備を活用して、中学校教員向けの講習を実施し、工業科教員相互の授業力向上の契機を図る。</p> <p>(3) ア・学校の実態に応じた人権課題等についての人権意識を高める研修を実施する。 ・教員のカウンセリングマインド向上に向けたテーマの研修を行う。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の教職員の会議等の機能に関する肯定率の前年度比10%向上をめざす。(H29年度27%) イ・初任者研修の達成度自己評価(事前事後報告書による)80%以上をめざす。(H29年度82%) ・10年経験者研修対象者の達成度自己評価80%以上をめざす。</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、授業理解に関する項目の肯定率を前年度比10%の向上をめざす。(H29年度61%) ・公開授業への外部参加者(保護者、中学校関係者)の授業評価アンケートの肯定率を前年度比10%の向上をめざす。(H29年度60%) ・授業におけるICT活用率の前年度比10%の向上をめざす。(H29年度41%) ・講習参加者の事後アンケートの肯定率100%をめざす。</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断の人権教育に関する肯定率の前年度比10%向上をめざす。(H29年度74%) ・参加人数を増やす。(H29年度約50%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断の教職員の会議等の機能に関する肯定率は26%であり、1%減少している。(△) イ・初任者研修の報告書の達成度自己評価(自己成長・確認シート)は78%である。(△) ・10年経験者研修対象者の達成度自己評価は、73%である(△)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断アンケート結果で、授業理解に関する項目の肯定率は、64%であり、3%向上した。(○) ・授業におけるICT活用率は53%である。2年生教室に電子黒板機能付プロジェクターを設置したが稼働率が悪く特定の教科でしか使用できていない。(◎) ・今年度、中学校教員向けの講習は実施できなかったが、広報活動の一環として、小中学校への出前授業を実施した。(△)</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断の人権教育に関する肯定率は70%となり前年度と同水準となった。次年度は、教員が参加しやすくするため方法などアンケートを取り時期や内容を検討する。(△)</p>

府立堺工科高等学校

	(4) ア働き方改革	(4) ア・全校一斉退庁日、部活動休養日の定時退庁を推進し、教職員の業務負担軽減を図る。	(4) ア・全校一斉退庁日の退庁率を年間平均 90%以上をめざす。(H28 年度 87.3%、H29 年度 89.7%)	ア・退庁率は 89.3%となり過去 3 年間と同様となり目標値の 90%を超えることが難しい。更なる啓発に努める。(△)
地域との連携 (1) 地場産業等との連携 (2) 地域団体等との連携による地域貢献	(1) ア堺・高石地域の地場産業との企業連携 (2) クラブ活動等を通じた地域貢献の推進	(1) ア・伝統工芸士（堺打刃物）や堺溶接業協会などの企業連携により、課題研究授業等の一層の深化（専門性の向上）を図る。 (2) ア・堺市等と連携し、専門性を基盤にしたクラブ活動等により、古墳群などの文化遺産の継承発展や自然環境の保全活動等の地域貢献活動を推進する。 ・堺市及び大仙地域の自治会と連携した地域事業への積極的参加。 ・地域の中学校等への出前授業等を実施し、ものづくり教育の魅力を発信する。	(1) ア・該当クラス該当授業の授業アンケート結果の高いレベルでのポイント維持。 (平成 29 年度 3.3 ポイント) *満点 4 ポイント (2) ア・活動参加生徒の自己評価（活動充実度）における肯定率 95%以上をめざす。 (H29 年度は 95%) ・出前授業参加者アンケートの肯定率 80%以上をめざす。(H29 年度未実施)	(1) ア・企業等連携事業では、堺溶接工業協会・大阪産業技術研究所・㈱きんでん・日本環境測定分析協会・関西環境管理技術センターとの連携事業を実施。生徒の第 1 回授業アンケートでも、平均 3.9 ポイント（満点 4 ポイント）のレベルを維持。(○) (2) ア・今年度も、地域貢献活動に参加。大仙フラワークラブへの参加や大阪マラソンでのボランティア活動等多数参加している。(○) ・新たな取り組みとして、中学校への出前授業を実施。河内長野市立美加の台中学校（11 月実施）・八尾市立曙川小学校（12 月実施）(◎)